

## 智頭町に新図書館 住民の声反映 29日オープン

石川和彦 2020年11月28日 10時00分



完成した智頭町の新図書館=2020年11月25日、鳥取県智頭町智頭、石川和彦撮影



鳥取県智頭町に新図書館「ちえの森ちづ図書館」ができ、28日に完工式がある。構想段階から住民の意見を取り入れ、子どもから大人まで学び、集える図書館になっているという。29日にオープンする。

町の玄関口・智頭駅前にある。平屋で広さ約1100平方メートル。利用者が紹介したい本を置く「つながる本棚」を設置し、勉強ができる「スタディールーム」やネットが利用できる「書斎」、ソファが四つの「くつろぎコーナー」を設けた。飲食可の「つどいの部屋」もある。

「たたみコーナー」と靴を脱ぐ「えほんコーナー」を隣り合わせにして、世代間交流ができるようにした。屋外には、智頭駅が間近に見える展望デッキ、ピオトープなどを配置した。

智頭町の図書館は、新図書館そばの町総合センター2階にある。中央公民館の図書室として出発し、広さ約140平方メートル。蔵書をすべて並べることはできず、子どもたちが勉強できる席も少なかった。

新図書館を望む住民の声もあり、町は2017年12月、新図書館の基本構想を策定し、約6億円の建設事業を進めてきた。これまで計9回のワークショップを開くなどし、住民の声を基本計画や設計に反映させてきた。

現在の図書館から約6万冊の蔵書を新図書館に運ぶ作業を終え、職員は現在、本棚に本を並べる作業などに追われている。館長の国岡厚志・町教委教育課長は「今後も住民や利用者と一緒に、この図書館を作り上げていきたい」と話している。(石川和彦)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.